

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 9 月 1 日現在

機関番号：12401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370200

研究課題名(和文)室町後期歌会資料の総合的研究

研究課題名(英文)A Comprehensive Study of Records of Late Muromachi "Poetry Meetings"

研究代表者

武井 和人 (TAKEI, Kazuto)

埼玉大学・人文社会科学研究科・教授

研究者番号：80154962

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究において、従来未刊の(ないし詳述されることなかった)歌会資料を、約25点、全文の釈文・略解題を付して刊行した。数的には、室町後期の歌会資料全体から見れば、これはごく一部にしか過ぎない。しかし、早くも、本研究の成果を踏まえた論文が現れており、今後、このささやかな第一歩が、学界の有用な研究リソースとなりうると確信する次第である。

併せて、近時突如として出現した新出資料である、十市遠忠自筆『十市遠忠百番自歌合』を入手することが出来、試行的な内容ではあったが、歌会資料の二次的使用に関する基礎的な考察の機会を得、論文公刊に至ることが出来た。

研究成果の概要(英文)：In this study, we published about 25 documents of poetry meetings with typographic translation and bibliographical notes which had not been published or described in detail with typographic translation and bibliographical notes. They are only a part of the whole bunch of the documents in the late Muromachi period. Nonetheless, there have already been some works which take into account this study. We are convinced that this first cut will be a useful resource for further studies.

Meanwhile, we have acquired "Tochi Totada Hyakuban Jika-awase" written by Tochi Totada, which suddenly appeared recently. We had an opportunity for basic examination of secondary use of poetry meetings and published an article, although it was preliminary.

研究分野：中世和歌

キーワード：歌会 月次 続歌 十市遠忠 柳営歌会 一人三臣和歌 自歌合 禁裏

1. 研究開始当初の背景

(1) 井上宗雄の先駆的研究とその意義

中世後期(南北朝・室町期)の歌壇史研究は、井上宗雄の三部作(『中世歌壇史の研究 南北朝期・室町前期・室町後期』)において、その全体像がようやく提示され、以後、この時期の和歌研究総体が急速に進展するその素地がここに出来上がった。

(2) 井上の研究方法

井上室町和歌史論の傑出した研究方法は、以下の二つに整理出来る。

(a) 奥書・識語の徹底した収集とその体系的活用

(b) 歌壇史研究における歌会資料の網羅的蒐集、個々の資料の位置づけ、その上での効果的援用

(3) 井上研究の継承・深化における問題点

(a) は、その後、多くの研究者がそれぞれの専門領域において研究を進め、現在では、相当程度深化して来ていると思われる。しかし、(b) は、井上が、前記著書の個々の論述や年表(特に「室町後期歌書伝本書目稿」)において、言及・整理していたものの、それらの論述の重要な典拠となった個々の歌会資料(伝本書誌、伝本系統論、本文校勘等)について、特に詳しく論及されることは稀であった。また、個々の歌会の全文の釈文は、井上著書では提示されることがなかった。その後の研究史においても、数少ない例外(例えば井上の監修になる『公宴続歌』の公刊)を除けば、一つ一つの歌会資料に関する考証、また、釈文・索引公刊等による全貌の提示という視点からいえば、必ずしもはかばかしい研究成果が得られていないというのが、現今の現況であった。

2. 研究の目的

(1) 内裏歌会が定期的に行われるようになり、かつ、歌会資料が典籍として多数伝存している15世紀中葉以降、即ち、室町後期において行われた歌会(複数人で同時に読まれた続歌・定数歌・法楽歌、及び私的に開かれた歌会等もここでは含める)の資料の所在を確認する。

(2) その上で、関連する資料を調査(書誌・熟覧・撮影・焼付)し、可能な限り釈文・略解題を作成する。あわせて、歌会資料個々の成立・背景を考証する。さらに歌会資料に収められる個々の歌会についても、考察を進める。

(3) 以上の調査、及び研究成果の公表を通して、井上の歌壇史研究を深化/進化させるとともに、従前の室町期和歌史研究の闕を補うことも目指したい。

3. 研究の方法

(1) 室町後期歌会資料(以下歌会資料)全体像を把握する。そのために、古典籍所蔵機関の目録・データベース等により調査する。

(2) (1)によって知り得た歌会資料の調査(熟覧)・撮影・焼付け。

(3) 従来釈文が公開されていなかった、あるいは、釈文が公開されてはいるが、より善本乃至注意すべき異本と思われる伝本を見出せた歌会資料を選定し、その釈文を作成し、同時に、訓みを確定させ、将来的にデータベース化をはかる一助としておく。

(4) 収集・調査済の短冊・懐紙を、時系列化された歌会と照らし合わせて、詠作された場を推定する。

ただし、これは試行的作業にとどめ、本格的な検討は、本研究では行わない。

(5) 以上の研究成果を一步押し進め、歌壇史研究へのフィードバックをはかる。

公表する研究論文の略解題において、史料(古記録・文書等)との対比等を試み、試行的に考察する。

4. 研究成果

(1) 従来釈文が公開されていない歌会資料を中心として、釈文及び略解題を作成し、雑誌論文として公刊するとともに、所蔵機関の許諾が得られたものについては、勤務先のリポジトリ「SUCRA」においても公開した。具体的には、以下の歌会資料である。

【1】国立歴史民俗博物館蔵高松宮本

- 1 石清水社百首続歌(H-600-277)
- 2 住吉社百首続歌(H-600-1337)
- 3 点取和歌(H-600-321)
- 4 侍従大納言家着到千首(H-600-465)
- 5 宗匠家続百首和歌(H-600-463)
- 6 『一人三臣和歌』(H-600-713)

【2】宮内庁書陵部図書寮文庫蔵伏見宮本

- 1 伏見宮家五十首和歌(伏-17)
- 2 続三十首和歌(伏-24)
- 3 伏見宮家続百首和歌(伏-25)
- 4 三十三首釈教和歌(伏-533)
- 5 伏見宮家百首和歌(伏-545)
- 6 点取和歌(伏-579)

【3】宮内庁書陵部図書寮文庫蔵三条西家本

- 1 三条西家着到百首和歌(503-253)

【4】宮内庁書陵部図書寮文庫蔵(禁裏本)

- 1 応永19年正月18日広橋家月次始歌会
底本:『禁裏御会和歌』(501-806)
- 2 応永19年12月9日仙洞三席御会
底本:『詩詞晴御会』(210-715)
- 3 永享10年2月28日内裏和歌御会
- 4 永享10年4月10日禁裏月次当座御会
- 5 永享10年4月16日六日内裏月次当座御会
- 6 永享10年4月28日内裏月次当座御会

7 永享 10 年 5 月 10 日内裏月次当座御会
8 永享 10 年 5 月 19 日内裏月次当座御会
底本：『禁裏御会和歌』(501-290)

【興福寺国宝館】

1 永享 4 年 2 月 11 日室町殿月次和歌
底本：『習見聴諺集』第 6 本(興 7-262)
〔備考〕底本は編者実暁自筆。未刊。

【静嘉堂文庫】

1 永享 5 年 3 月 27 日足利義教邸初度御会
和歌
底本：『瑠璃壺百首』(82-34-15122)
〔雑誌論文〕

数は残念ながら多いとはいえないものの、釈文をこのように公開出来たことで、早くもこれら歌会資料を利用した論考が現れてきている。

一例を示せば、日本史学の分野ではあるが、田村航「白川資雅と「狐」」(伏見稻荷大社『朱』60、2017・3・1)において、資雅の「漢才」の有無に関し、【4】2「応永 19 年 12 月 9 日仙洞三席御会」の詩歌会に資雅が出詠していないことを根拠にして、否定的な見解が示されている。

このように、今後、歌会資料は、史学・美術史学・藝能史等、幅広い隣接分野の研究に援用されてゆくものと思われる。

(2) 本研究を進める過程で、2014 年 10 月、偶然にも歌会資料二点を古書肆より得ることが出来た。即ち、

『三十首和歌詠草』

『長享二年六月卅日十六首和歌御当座 / 詠三十首和歌』

この二点である。

いずれも、当該研究領域の先駆的研究者である井上宗雄の旧蔵本。はからずも両書には「長享二年六月三十日十六首和歌御当座」なる歌会資料が共に収められている。本文の比較考量のために、両本の本文を比較対照出来る形で示し、本文校勘の資ともなりうるようにした。併せて、当該資料に関する井上論に対して、訂正を迫る略解題を付した。

〔雑誌論文〕、〔図書〕

(3) 関連する和歌資料として、十市遠忠の自歌合に関する新見・新出資料についても調査・研究を行い、論文二点を公刊した。

前者は、遠忠詠草に見える「理判歌合」という注記を手がかりにして、今では伝わっていないものの、天文 5 年頃、『六十番自歌合』なる自歌合が成立していたのではないかと、という推論である。

後者は、平成 28 年度に古書肆より得ることが出来た『十市遠忠百番自歌合』に関する考察である。本自歌合も、従来全く知られていなかった新出資料で、和歌本文は十市遠忠、判詞は鳥居小路経厚、という各々著者自筆の清書本である。これも遠忠詠草と密接な関連を持っていることが判明した。

遠忠詠草、上記両自歌合には、遠忠周辺で頻繁に催行された歌会・定数歌が多く採られており、歌会資料がどのように二次使用されていたのか、といった問題を考える際の、極めて重要な、かつ、有益な典拠資料となりうるものと判断し、本研究の中に位置づけてみたところである。

〔雑誌論文〕

(4) 歌会資料が典籍としてどのように流布し伝来して行ったのか、という問題は、従来ほぼ全く論じられることがなかった研究テーマである。

幸い、上記【1】6『一人三臣和歌』に関して、(3)で触れた十市遠忠が、南都菩提山正暦寺の尊俊所持本を転写したことが、東京大学史料編纂所蔵本の識語より判明し、このことをも含めて、南都における和書の蒐書・書承を論ずることが出来た。もとより、現段階では、断片的なかつ零細な視点から論じているに過ぎないが、歌会資料の伝播の広さを窺うことが出来たのは、大きな成果といえるだろう。

〔雑誌論文〕

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 16 件)

武井 和人、新出資料・架蔵『十市遠忠百番自歌合』小孜、埼玉大学教養学部リベラル・アーツ叢書別冊 2 言語についての 章 言語を考える、言語を教える、言語で考える、査読無、2017、429-441

http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xo_onips/detail.php?id=P0000311

山本 啓介、室町期における三席御会、青山語文、査読無、2017、47、37-52

石澤 一志、酒井 茂幸、武井 和人、日高 愛子、室町期歌会資料集成稿(四)、研究と資料、査読無、2016、76、25-34

http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xo_onips/detail.php?id=A3000415

武井 和人、室町期南都寺院における和書のひろがり、上杉和彦監修・福島金治郎編『学藝と文藝〔生活と文化の歴史学シリーズ 9〕〔竹林舎〕、査読無、2016、285-309

石澤 一志、酒井 茂幸、武井 和人、日高 愛子、室町期歌会資料集成稿(三)、研究と資料、査読無、2016、75、37-63

http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xo_onips/detail.php?id=A3000412

武井 和人、十市遠忠自歌合搜索願、汲古、査読有、2016、69、36-41

酒井 茂幸、近世禁裏仙洞における定数

歌・歌会の書写活動について、国文学研究資料館紀要・文学研究篇、査読無、2016、42、119-149

石澤 一志、酒井 茂幸、武井 和人、日高 愛子、室町期歌会資料集成稿(二)、研究と資料、査読無、2015、74 輯、11-33
http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xo_onips/detail.php?id=A3000405

山本 啓介、披講を前提としない和歌の詠作と鑑賞態度について、中世文学、査読有、2015、60、73-82

日高 愛子、飛鳥井雅康の定数歌とその晩年、西日本国語国文学、査読有、2015、2、1-15

日高 愛子、実隆五十首の成立と道堅、和歌文学研究、査読有、2015、110、40-51

石澤 一志、酒井 茂幸、武井 和人、日高 愛子、山本 啓介、室町期歌会資料集成稿(一)、研究と資料、査読無、2015、73 輯、17-53
http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xo_onips/detail.php?id=A3000402

酒井 茂幸、武井 和人、山本 啓介、国立歴史民俗博物館蔵高松宮本『一人三臣和歌』、埼玉大学紀要 教養学部、査読無、2015、50-2、5-56
http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xo_onips/detail.php?id=KY-AA12017560-5002-15

武井 和人、日高 愛子、【資料紹介】武井蔵「長享二年六月三十日十六首和歌御当座」、研究と資料、査読無、72、21-29
http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xo_onips/detail.php?id=A3000384

酒井 茂幸、武井 和人、未刊室町後期歌会資料(五)、研究と資料、査読無、72、31-57
http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xo_onips/detail.php?id=A3000385

酒井 茂幸、武井 和人、未刊室町後期歌会資料(四)、研究と資料、査読無、71、21-38
http://sucra.saitama-u.ac.jp/modules/xo_onips/detail.php?id=A3000382

〔学会発表〕(計1件)

石澤 一志、文明十二年九月着到和歌をめぐって、和歌文学会関西例会、2016・7・9、関西大学千里山キャンパス[大阪府・吹田市]

〔図書〕(計1件)

武井 和人、新典社、中世古典籍之研究 - どこまで書物の本姿に迫れるか -、2015、688

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

武井 和人 (TAKEI, Kazuto)
埼玉大学・人文社会科学部・教授
研究者番号：80154962

(2) 研究協力者

(3) 連携研究者

石澤 一志 (ISHIZAWA, Kazushi)
鶴見大学・文学部・非常勤講師
研究者番号：30507752

酒井 茂幸 (SAKAI, Shigeyuki)
埼玉大学・学内共同利用施設等・非常勤講師
研究者番号：40773271

日高 愛子 (HIDAKA, Aiko)
志學館大学・人間関係学部・講師
研究者番号：20706741

山本 啓介 (YAMAMOTO, Keisuke)
新潟大学・人文社会教育科学系・准教授
研究者番号：50601837